

自然とかかわっているって素晴らしい!

Green Life 2002.秋号

Green Life

グリーンライフ

CONTENTS

- 樹霊碑 2
- 心のビタミン・INTERVIEW 佐々木吉美 ... 3
- ◎ポタニカルセンター・オープン 4
- ◎市民・コラボレーション 5
- むつみ・社内プロジェクト 6
 - ・[自然再生プロジェクト-1]
 - ・[グリーンマネジメントプロジェクト-2]
- 「みどり」を楽しむ仲間 8
 - ・田村政則/市川和子/榎 清英
- TOPICS ~ むつみ造園・営業所紹介...10
- 自然と関わっている素敵な笑顔がいっぱい!
- MUTSUMI COLLECTIONプロの道具...12



2002年
秋号

樹

霊碑



現在緑化の需要拡大における樹木の生産、流通植樹は

かつてその例を見ざる活況を呈して居るも、

それに伴う樹族の枯死も亦多大なるもの有り。

その因を顧みるに我らその業に携わる者の技能、技術、

配慮の欠如これに及ぶものなく、あたり天寿を全うせざるの儀、

共に生をうくるものとして遺憾の意を禁じ難く、

今この碑を建立するにあたり我ら一同、

植栽技術一層の向上を誓い、その霊に敬謙なる

祈りを捧ぐるものである。

昭和六十年三月二十四日建立

むつみ造園土木株式会社



社 是

創造の真髄

経営理念

1. 私たちは、ひとりの人間の尊厳に根差し無限の潜在能力を信じ、より多くの機会を与え、世界平和に貢献するむつみ人を育む。
2. 私たちは、これまでの日本造園文化を理解し心の豊かさを深め、適度な物質的充実を享受できる独創力あふれる造園建設業界の先導的むつみ造園をめざす。
3. 私たちは、地域社会の文化・経済・環境生態系の発展生成は企業の使命と心得、創造性豊かな活動を以ってむつみあう社会造りに貢献します。

日々の成長までも愉しめる、 命ある芸術品。◎佐々木 吉美



◎佐々木 吉美(Yoshimi Sasaki)
1945.5.13生まれ。
東京にて造園修行を3年間経験の後、
昭和46年「むつみ造園土木(株)」入社。
平成3年よりサツキを手掛けるようになり
2年前「月刊さつき研究」に連載をもったほ
どのサツキ通。本作品の他、国風展入選の
経験もある。

I N T E R V I E W

ある日、五百年も前のサツキと出会ってしまった。その、ひん死状態とも見える木を庭に植え水をあたえようと、みるみる生命力を発揮してその木は生き返った。それも美しく。
命というものの健やかさと、瑞々しいまでのその姿に、「盆栽」を真剣に取り組んでみようとして佐々木さんが思った出来事だった。日本人として伝統文化に携わりたいと、かねてからの構想とも交錯し、盆栽の心豊かな愉しみにすっかり魅せられてしまったのだ。佐々木さんは特に、サツキを専門としている。
「盆栽は、生き物だからおもしろい。毎年成長して姿を変化させるんだよ。針金をかけ、10年後、20年後をイメージして芽摘みや剪定作業をしているけど楽しいよ。やってみたら?」
毎朝の水やりも、自宅に70もの鉢があると、30分以上かかる。しかし、佐々木さんには楽しいひとときのような。水やりは、木の生命の維持において不可欠な作業の一つ。季節の違いや環境、樹種の違いなどで、木の健康を管理する役目も果たす。午前5時半、朝の新鮮な空気の中で盆栽を前にし、何を想うのか。自然に対する人間の責任、数々の銘木に対する深い愛情、

◇銘木を目指して



3年目
まだ輪郭がはっきりしていない



4年目
やっと盆栽らしくなってきた



5年目
すこしは将来が見えてくる頃



花をつけた「栄冠」
見事な花が枝いっぱい



佐々木 吉美

上野美術展で入選を果たした作品「晃山」。安定感があり、整然とまとまった樹姿に風格が感じられる。11年がかりのこの作品には、盆栽にかける佐々木さんの愉しさと厳しさが表れているのではないだろうか。

◇9/12~9/16に開催された「みちのくグリーンサム物語」のイベント会場、国営みちのく柱の湖畔公園内、鳴瀬川河原の家「盆栽展」で撮影。

その小さな鉢にある命の重み、これから何年後の勇壮で端正な樹姿...。
「年寄りの趣味じゃないな。」と笑う佐々木さんの言葉は、案外本当かもしれない。何十年も後の将来を味付けしていく盆栽の世界は、深く果てしなく続く毎日の積み重ね。「あと20年もしたら、この木はもつと良くなるよ。木の重みを感じられるようになるからね。」昨年上野美術展で入選を果たした作品「晃山」のことだ。名品とされてもお、銘品を目指す心意気。深く作品を愛する佐々木さんの盆栽道は、まだまだ続きそつだ。

※上の写真は、同一の木ではありません。



秋田の原種植物の研究と育種施設として、地域のコミュニティ広場として、ガーデンングを楽しめる場として…。
むつみボタニカルセンターがオープンしました。



むつみボタニカルセンター ～植える花夢オープニングパーティー～

今年7月5日(金)天王町にオープンした「むつみボタニカルセンター」。秋田の原種植物の研究と育種施設として、また、地域の皆さんのコミュニティ広場、各種講習会の会場、ガーデンングを楽しめる場として、誰もが自由に使える施設ができました。

方など、たくさんの方が参加されました。オープンガーデンに設置したコーナーでは、パーベキューや寿司、デザートなどを、緑いっぱい心地良い空の下でいただきました。参加者の皆さんは、思い思いのスタイルでこのパーティーを楽しんでいました。たくさんの方に参加してもらい、地域のふれあいの場となった、オープニングパーティー。人と人のふれあいが楽しいひとときでした。



野点では、裏千家・佐々木宗林先生のお茶を味わいました。



左から/デザートコーナーの「リューシュ・ドール」シェフ加藤毅さん、寿しコーナーの「新寿し」角田耕作さん、野点の「裏千家」佐々木宗林さん。

ボタニカルセンターのオープン祝として、加藤シェフが特別製作してくれたケーキ、クロカンブッシュ。



無花果のタルトにクラシックケーキ…ステキなデザートが何種類も!



オープンガーデンでは和牛リブロースやイワナの塩焼きなどのパーベキューコーナーが大盛況!



イベントスタッフはマレーシア航空客室乗務員のユニフォームで参加。カレンさんの娘さんもニコリ。

カレン・ヌニスさん、ブラックストーンさんによる、ウエルカムライブも開催。



ワーキングウェアのファッションショー。



室内では、オープンを記念した展示品がいっぱい。右側より、粹環境調査研究所・白沢芳一さんによる拓葉(秋田の原種)、平田睦子さんの押花、佐藤たず子さんのナチュラルクラフト。



笑顔と笑顔。市民とのコラボレーション。

第6回墓地見学会が、秋田石油備蓄基地で9月7日(土)に開催されました。

乗船体験、手づくり工房、物産特売コーナー、さらに、なまはげ太鼓、大道芸、マジックショーなどもあり、市民とふれあう見学会は、過去最高の来場者数となりました。

私たちも、風船、竹とんぼ、シャボン玉、プランターなどの手づくりコーナーを担当し、多くの人たちの笑顔とふれあった、楽しい一日でした。

秋田石油備蓄基地。墓地の役割を知ってもらおうと97年より見学会を開いている。

専用バスで基地内を移動。発車した20台は全て満席でした。



大道芸、なまはげ太鼓等も催され、盛り上がりました。



シャボン玉、風船、竹トンボ...各コーナーで、皆さん楽しめました。

COLLABORATION

市民・コラボレーション

Sekiyu Bichiku Kichi

Mutsumi Botanical Center

Akita Biomic Area



迫力満点の、太鼓集団矢坂のみなさん。ボクも私もチャレンジ。

いらっしやい！
いらっしやい！
球根つかみどりだよ！

10月19日(土)・20日(日)の2日間、大湯村のアキタバイオミックエリア内の生態系公園で開催した市民との交流イベント。「花と緑を楽しむ人、みんな集れ！」が開催されました。このイベントは3回目の開催で今年も多くの人々が秋のひとときを楽しんでくれました。

樹木の名前当てクイズや、球根つかみどり、ピーズアクセサリーコーナー、太鼓集団矢坂のみなさんによる、演舞などが行われ、終日多くの人で賑わいました。

県内の自然植生を再現している生態系公園で、笑顔の輪が広がりました。



ハワイアイス買ってね～！



生態系公園

園内は、6つの群落(スギ・ケヤキ・カツラ・アカマツ・ブナ・オオシラビン)の他、水辺の植物、裏山の植物、身近に見られる植物などがあり、約120種1,000本の樹木が植えられています。



ピーズアクセサリー制作コーナー。



大好評の風船コーナー。